

命の節を強固に作る

若草萌え、桜見物の好季節となりました。新しい環境で心機一転スタートを切られる方々が多い四月です。それぞれにとって大きな節目を迎えておられることであります。私達には新年度、新学期、終業式、修了式、正月、大晦日など、一年間には社会的に決まったいろいろな節目があります。それらの節目に差し掛かった時、否が応でも意識が高まっていくものです。

先頃、面白い本を手にしました。題して『子どもたちが身を乗り出して聞く道徳の話』（平光雄・著 致知出版社）です。本書を読んで「うーん」と感心させられたわけです。一例を抜粋して紹介しましょう。

【「あーあ」と「よーしー!」】

長い休み明けなどは、どうしても多くの子どもたちが怠惰な気持ちをはきずりやすい。（それは子どもに限らないが）そこで、「先取り」である。放っておけば、マイナス思考に傾きやすいのも人間の脳の特徴だという。黒板に大きく「あーあ……よーしー!」と板書する。そして「さあ、君たちは

今朝、どっちで登校してきたかな？」と問いかける。

『「あーあ……」楽しい夏休みも終わっちゃったな。毎朝寝坊もできたし、テレビも自由に見られたのに……あーあ、また勉強か……』と思ったか？

『「よーしー!」今日から二学期だ! 夏休み、しっかり遊んだし、今日からがんばるぞ! よーしー!』と思ったか？

「さあ、どつちかな? 『よーしー!』と違って来た人、素晴らしいぞ。徒競走で言えば、素晴らしいスタートが切れたね。おめでとう。その調子でがんばっていこう!」

『「あーあ……」で来てしまった子、よーい、ドン! で出発できなかった。こけちゃった? 残念! でもね、明日からでも遅くない。明日は『よーしー!』で来るんだよ。二学期はやりがいのある行事や学習がいっぱいだ。がんばっていこう!』と発破をかける。

これだけで、子どもたちの弛みはかなり改善される。できれば、前もって「始業式は、よーしー! で来るんだよ。そう思えるよう、思いっきりやりたいこと夏休み中にやっておくんだよ」とも言っておけば、さらに多くの子がよいスタートを切りやすくなる。休み明けの弛みがちな心を制し、初動を成

功させるには、「先取り思考」が有効である。また、この指導と合わせて、脳科学で証明されている、「やる気」は「迎え撃つもの」でもあることを教える。

「やる気」はやることによって、やっていくうちに起こってくるもので、それが出てくるまでじっと待つ、というのはナンセンスであるということだ。「よーしー!」と、始動してしまえば、「やる気」が生まれる、という逆もまた真である。（以上、本書抜粋）

なるほど、確かに「やる気」というのは実践する事で初めて自然発火していくものなのかもしれない。であれば、ここに紹介した「あーあ」と「よーしー!」については、子どもに限らず、大人も同じく、節目ごとに心持ちの如何が問われるというものでしょう。自らの人生における節目に対して、できるだけ意識的に過ごす事が肝要とと言えます。つまり、ただ漠然とやり過ごしていくのか、意識的に節目を迎えるのとは、雲泥の差となつて長い人生の中で顕現してきてしまう事になります。換言すれば、今ある自分の人生のドラマは、良いも悪いも全て自分の意識が引き寄せた現実であるという事が言えるでしょう。現実というのは他でもない、自分の心の映し鏡と言えます。

【節目あつてこそその成長】

子供達（学生達）には「学期」や「学年」、「入学」や「卒業」の間に、『節』があるという事を自覚させます。もし『節』を無自覚に区切りを付けずに過ごしたとしたら、どれほど弱々しく、ダラダラとした充実感の無い学生生活になってしまうことでしょうか。

教育というのは読んで字の如く、教える育むことです。『節目』が大事であるという事は、自然発生的に生まれる感情ではありません。だからこそ、『節目』が自身の成長の機会に交換できる様になる為にも、大人は子どもにシツカリ教え込まなければいけません。『節目』あつてこそその「やる気」。『節目』あつてこそその「成長」。『節目』あつてこそその「再起」です。まずは大人自身がそのように自覚し、それぞれ各人の『節目』を大切にしなければならぬものと思えます。

「節」というのは、いろんな面できちんと締めくくるといふ意識と、次へ向かう新たな決意によって、強くできるものです。そして、自分で「節を作る」という意識を持つ事、持たせる事が大切です。何事も始める

に当たっては、心意気が必要という事です。

【魂の節を強固にする】

《地震が来たら竹藪に逃げろ》という言葉もあるくらい、竹は他の木に比べてとても強い。なぜそんなに強いのかというと、一つは、地中に深く広くしっかり根を張っているから減多なことで倒れないということ。ただし、根が広く深く張り巡らされているというだけなら、世界最大の根を持つ麦科の「カラスムギ」になうものはないでしょう。では何でしょう？竹の最大の特徴として、硬くて強い『節』が挙げられます。鋸でもなかなか切れません。もし、竹に節がなくて一本の空洞の円柱形に過ぎなかつたら、風雪にも耐えることができず簡単に倒れてしまう事でしょう。過去にハンド仏句でも記しましたが、竹が柔軟に「しなる」事ができるのも、節のお陰であります。ちなみに竹は、光を求める性格が他の植物よりも際立って強い植物です。私達が目にする竹は、地下に埋まっている地下茎から伸びた枝のような存在です。実は、竹の本体は地下に埋まっていると考えてもよいと言われています。成長する為に、光とい

う栄養を求め、グングン伸びた竹は、日々移り変わる風雪に耐え忍び、「節」を作り上げていきます。私達人間も同じ事が言えます。私達の本体とも言える魂が磨かれるのは、人生の苦楽を経験しながら、目には見えない「節」という魂の人間の器が構築されていくからです。人生という風雪に耐え忍んだ結果として、**命の節が強固になっていく**のです。

喜ぶ、怒る、哀しむ、楽しむ。こういう感情を持つているところに、人間の人間たる所以があります。陽明学の祖・王陽明は、「天下のこと万変といえども、**わがこれに應ずるゆえんは喜怒哀楽の四者を出でず**」と仰っています。生活の様々な場面で喜怒哀楽の感情が現れないということは、生きた人間にはあり得ません。例えば**光の色**について、私達は普段殆ど意識することがありませんが、**プリズムを通せば鮮やかな七色に分解されます**。光はそういうものを含んではいるけども、平生はそれが統一、調和されており、それぞれを個別に認識することは出来ません。心の喜怒哀楽も同じ様に、無自覚の内に秘められています。上手な嘶家は巧みな話術で笑いの渦を巻き起こしたり、泣かせたり、観客を自由自在に操ります。しか

めつ面をしていた人が話を聞いて大笑いするのも、そうした感情が内にあるからです。また普段から物事に動ぜず、怒っても仕方のないようなことには平静を保っている人は、肚の中でそれを処理しているのでしょうか。肚のできている人と、できていない人はそこが違います。その差をつくるものこそが、一つ一つの『節目』を、どの様に捉えてきたかによるものと思います。内に統一され、何も無いと思っていたものが、外からの刺激に応じて表に現れる。その時に喜ぶか、怒るか、哀しむか、楽しむか、相応しい感情を表に発すること**が節度の中する**という事です。桜花爛漫、心機一転、新たな『節目』に際し、皆様のご多幸をお祈り致します。

合掌 副住職 谷川寛敬



本堂屋根（銅板）改修工事もお蔭様で無事完成致しました。ご寄進賜りました皆様には、厚く御礼申し上げます。毎朝のお勤め時にご寄進頂いた方々の家内安全、身体健全を御祈願致しております。尚、未だご協力頂いていない方には、何卒宜しくご協力をお願い申し上げます。又、勸募期間は、本年三月末迄となっております（改めて決算報告申し上げます）

- ・ 十万円……………一人
- ・ 五万円……………三人
- ・ 三万円……………一人
- ・ 二万円……………二人
- ・ 一万円……………十人